

50<sup>th</sup>  
Global Toyo  
Anniversary

# INTERIM REPORT

第57期 中間報告書

平成23年4月1日から平成23年9月30日まで

 東洋エンジニアリング株式会社(TEC)

<http://www.toyo-eng.co.jp/>

証券コード：6330



取締役社長  
山田 豊

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループの第57期上半期(第2四半期連結累計期間:平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)における事業の概況についてご報告申し上げます。

## 平成23年度上半期の概況について

当社グループの事業の中核であるプラントおよび産業設備に関する市場では、新興国の経済発展や世界人口の増加を背景として、エネルギー関連、社会インフラ関連、当社が

ライセンスを保有する肥料(尿素)関連の設備投資が引き続き計画されております。しかしながら、景気の先行きに不透明感が強まったことで、設備投資の最終決定に慎重を期す企業もあり、案件の実現までに時間を要する傾向が強まっております。加えて、韓国、欧州等各国コントラクターとの競争は予断を許さない状況であり、受注においては依然厳しい環境が続いております。

## 当上半期の取り組みと業績

このような状況の中、当社グループは、南米、アジア、中東、ロシアをはじめとした各地域において積極的な営業活動を展開し、顧客とのパートナーシップの一層の強化に努め、また、インド、韓国、中国、マレーシア等に保有するグループ子会社とのグローバルオペレーション体制(Global Toyo)をより深化させ、グループとしての総合力、競争力の強化を図り、

受注の確保に注力いたしました。

また、業績面では、既受注案件につきましては、タイ向けおよびアゼルバイジャン向け発電所、ブラジル向けFPSO(浮体式海洋石油生産・貯蔵・積出設備)、ベネズエラ向け肥料(尿素)製造設備、カタール向けリキッドプロセッシングユニット

等のプロジェクトや、中国やインドネシアの日系企業進出案件などにおいて、利益目標達成に向け、確実な業務遂行に努めました。また、固定費・プロジェクト経費の削減を継続いたしました。その結果、当上半期の売上高(完成工事高)は620億円(前年同期比19.2%減)、営業利益は24億円(前年同期比11.6%増)、経常利益は18億円(前年同期比26.6%減)、四半期純利益は15億円(前年同期比29.9%増)となりました。

## 当上半期の受注概況

海外では、エネルギー関連を中心に、EPC(設計・調達・建設)の一括請負案件の他、ソフト案件(フィージビリティスタディー、フロントエンドエンジニアリングデザイン、基本設計、調達サービス、プロジェクトマネジメントサービス、コンサルティングサービス等)を受注いたしました。具体的には、

サウジアラビア向けアンモニアプラント省エネ改造工事等の案件を獲得いたしました。

また、グループ子会社では、トーヨー・エンジニアリング・インディア・リミテッドがインドで大型合成ゴム製造設備建設工事を受注し、トーヨー・エンジニアリング・コリア・リミテッドがインドネシアでブタジエン製造設備建設工事を受注いたしました。

国内では、円高を背景とした日系企業の海外進出案件および医薬ビジネス分野において積極的な営業活動を展開し、複数の新規顧客から案件を獲得いたしました。

当上半期の受注高としては、753億円(前年同期比21.2%増)に留まる結果となりましたが、引き続き、エネルギー関連、社会インフラ関連、肥料(尿素)関連の大型案件を中心に、案件獲得に向け注力してまいります。

### 取り組むべき課題

最大の課題である「受注の確保」の実現に向け、グループ子会社とのグローバルオペレーション体制(Global Toyo)の深化を更に加速させてまいります。これまで実施した共通技術基盤の強化、システムの整備などの一体化に向けた取り組みは、成果が現れはじめており、本年3月に受注したインドネシアの大型肥料案件や、直近ではインドの肥料案件等で、グループとしての「TOYO」が、韓国企業や欧米企業を凌ぐ競争力を備えるようになってまいりました。人材育成・活用の面においても、グループ子会社との人的な「相互乗り入れ」を推し進めており、更なる一体化による競争力の強化に努めてまいります。

更に、ビジネスチャンスを的確に捉え受注を拡大するための営業力を一層強化してまいります。初期段階からの顧客密着型・提案型の営業活動に注力し、顧客ニーズを追求し、顧客価値の創造に向けた優れた提案を通して他社との差別化を図ってまいります。地域的には、従来の営業地域に加えて、イラク、アフリカ・サブサハラ諸国、カナダといった新興

国・資源国にも展開し、将来の大型案件受注に向けた営業活動に注力してまいります。

更に、新分野・新商品開発による事業基盤の強化に引き続き取り組んでまいります。発電・交通・水などの分野の事業を強化するとともに、新商品開発ではマイクロGTL(ガス・ツー・リキッド)、中規模LNG(液化天然ガス)の分野についても注力してまいります。

### 中間配当について

中間配当につきましては、誠に申し訳ございませんが、見送りとさせていただきます。なお、期末配当金につきましては、通期の業績向上の進捗の度合いなどを総合的に勘案し、期初公表の3円/株に対して2円増加の5円/株(創業50周年記念配当1円/株を含む)を予定しております。

### 株主の皆様へのメッセージ

当社は、平成23年5月に創業50周年を迎えました。これも株主の皆様をはじめ多くの方々のお力添えがあったからこそと、改めて感謝申し上げます。

当社グループは、50周年をマイルストーンとしながら、引き続き、「Global Leading Engineering Partner」という企業像の下、プロジェクトマネジメント力や総合エンジニアリング力といった当社グループの強みを活かし、新しい顧客価値の創出に挑戦してまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年11月

取締役社長 山田 豊

# 連結業績の概況

## 当第2四半期 業績のポイント

### 大型プロジェクトの採算良化により収益性が向上。

- 売上高は、620億円(前年同期比19.2%減)
- 営業利益は、24億円(前年同期比11.6%増)
- 四半期純利益は、15億円(前年同期比29.9%増)
- 受注高は、753億円(前年同期比21.2%増)
- 受注残高は、2,328億円(前年同期比57.8%増)

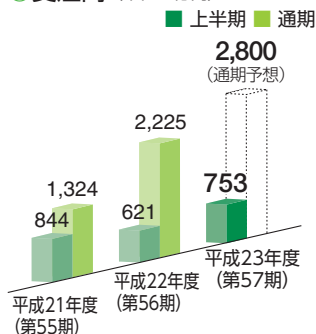
売上高は、一部プロジェクトの進捗の遅れにより前年同期比19.2%減の620億円となったものの、新規に受注したソフト案件、および終盤を迎えた大型プロジェクトの収益向上と固定費等の削減により、営業利益は、前年同期比11.6%増の24億円を計上いたしました。四半期純利益は、前年同期比29.9%増の15億円となりました。

受注高は依然厳しい環境が続く中、753億円(前年同期

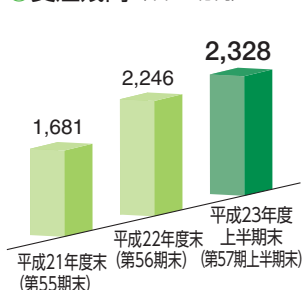
比21.2%増)にとどまり、受注残高は2,328億円(前年同期比57.8%増)となりました。

通期の見通しは、売上高は期初公表どおりの1,800億円、営業利益はソフト案件と新規受注案件の収益貢献、および通期で想定されるプロジェクトの業績向上分を反映させ、期初公表比100%増の50億円、当期純利益は期初公表比440%増の27億円を見込んでおります。

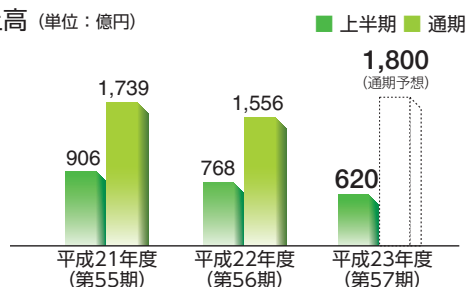
#### ●受注高 (単位：億円)



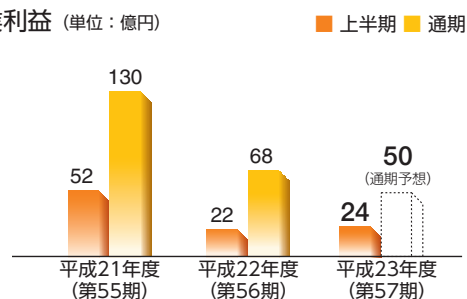
#### ●受注残高 (単位：億円)



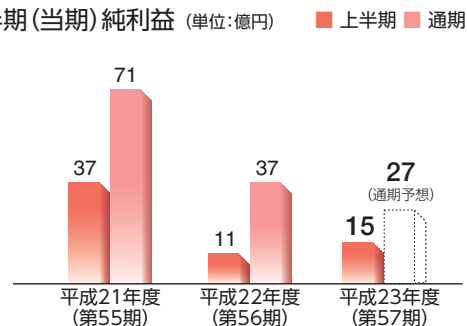
#### ●売上高 (単位：億円)



#### ●営業利益 (単位：億円)



#### ●四半期(当期)純利益 (単位：億円)



## インドネシア大型肥料プラントプロジェクト 調印

平成23年6月、インドネシア国営肥料会社(カルティム社)がカリマンタン島ポンタン地区に建設する肥料プラントプロジェクトの調印式が行われました。契約形態はEPC一括請負で、当社グループがインドネシアのエンジニアリング会社イカペテ社とのコンソーシアムでプロジェクトを実行いたします。

カルティム社はインドネシア国内に4プラントを運営し、本プラントは同社にとって5番目のプラントとなるもので、アンモニア日産2,500トン、尿素日産3,500トンとユーティリティ設備で構成される世界最大級の規模です。平成22年9月に入札が行われ、欧州、韓国、日本勢5グループによる競合となりましたが、技術力と経済性において他を押さえて、平成23年3月受注に至りました。本プラントは、当社がこれまで建設してきた尿素プラント



調印式

(合成系)のうち、ちょうど100基目となるプラントです。

本プラントに採用された当社の尿素合成技術「ACES 21®」と大粒尿素造粒技術は、建設費とユーティリティ消費量の双方を抑えることができる技術であり、これまでに「ACES 21®」が8プラント、大粒尿素造粒技術が21プラント、世界中で採用されております。

新興国を中心とした人口増加に伴う食糧増産に向けて、肥料の需要は今後も伸びることが予想されます。当社は技術の更なる改良とプラントの最適化に磨きを掛け、今後も肥料生産の安定供給に貢献してまいります。

## 大手製薬会社向け 原薬製造工場建設を連続受注

当社が1990年代から力を入れてきた医薬関連業界向けエンジニアリングは、昨年来より大手製薬会社から連続受注をいただいております、活況を呈しております。

当社は、医薬関連業界の中でも特に原薬・中間体製造分野に



医薬エンジニアリング マルチ工場納入例

軸足を置き、その対象工場のマルチパーパス化のニーズに対応するビジネスを展開してまいりました。エンジニアリング手法やツールを駆使した地道な活動が奏功し、現在では原薬マルチ工場分野において顧客からの評価をいただいております。

また、最近では抗がん剤をはじめとする高薬理活性医薬品の需要が高まりつつあります。当社は、高薬理活性原薬マルチ工場における実績を足掛かりに、封じ込めという特殊な技術を必要とするこの分野へのビジネス展開にも注力してまいりました。現在も十数社からの建設計画に対応中であり、うち数件の計画は当社が建設も含めて手掛けております。

今後は、原薬マルチ工場、高薬理活性医薬品製造工場に関わるビジネスの一層の拡大を図るとともに、今後市場の拡大が期待されるバイオ医薬品製造の分野についてもビジネス領域を広げてまいります。

# 持続的な社会の発展へ。世界を舞台に進むプロジェクト



## Engineering for Sustainable Growth of the Global Community

当社グループは、エネルギーや素材の供給とインフラの整備を環境保全と調和させ、顧客やパートナーとともに、新たな価値を創造し、持続的な社会の発展に貢献しています。

### ▶ 受注

	顧客名	名称	場所	役務範囲
1	アルジュベール ファーティライザー社(アルパイロニ)	アンモニアプラント省エネ改造工事	サウジアラビア	設計・調達・工事・試運転
2	丸善石油化学株式会社	アルコールケトン製造装置震災復旧工事支援	日本	工事管理
3	財団法人 愛媛県廃棄物処理センター	東予事業所微量PCB廃棄物処理施設建設工事	日本	設計・調達・工事・試運転

### ▶ 進行中

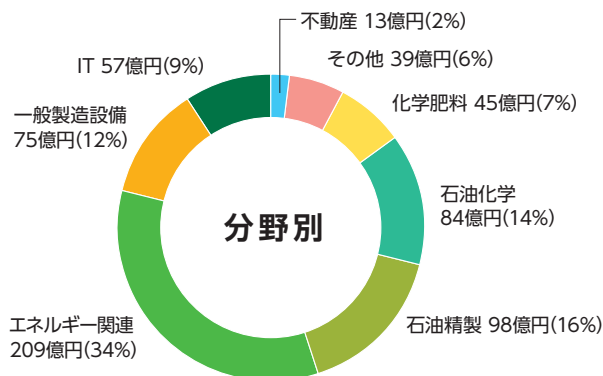
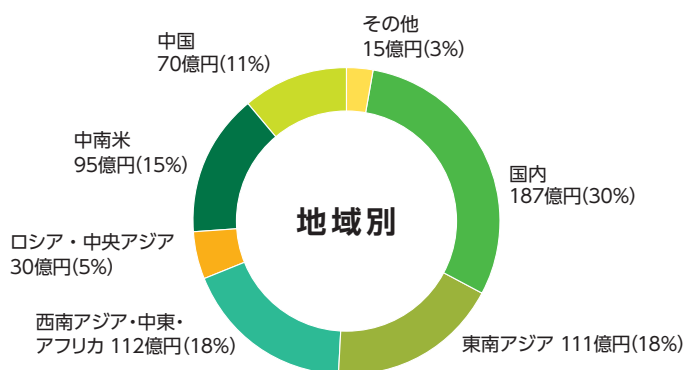
	顧客名	名称	場所	役務範囲
4	ガルフジェイピー社の100%出資事業会社	タイ発電 熱電併給設備7案件	タイ	設計・調達・工事・試運転
5	カルティム社	肥料プラントプロジェクト	インドネシア	設計・調達・工事・試運転
6	ベネズエラ国営石油化学会社	アンモニア・尿素プラント	ベネズエラ	設計・調達・工事・試運転

### ▶ 完成

	顧客名	名称	場所	役務範囲
7	インド石油ガス公社	液化天然ガス(LNG)処理設備	インド	設計・調達・工事
8	三菱ガス化学株式会社	樹脂製造設備	日本	設計・調達・工事
9	株式会社トーハン	東京ロジスティックスセンター向け上位系サーバリプレイス	日本	設計・調達・工事・試運転助勢

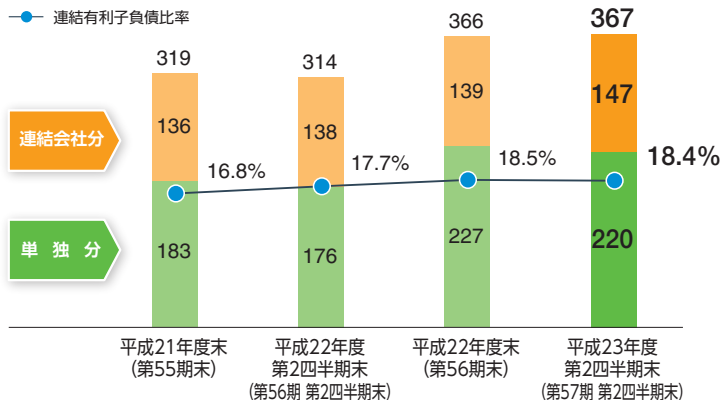
# 売上高構成比

■売上高構成比（平成23年度上半期 連結）

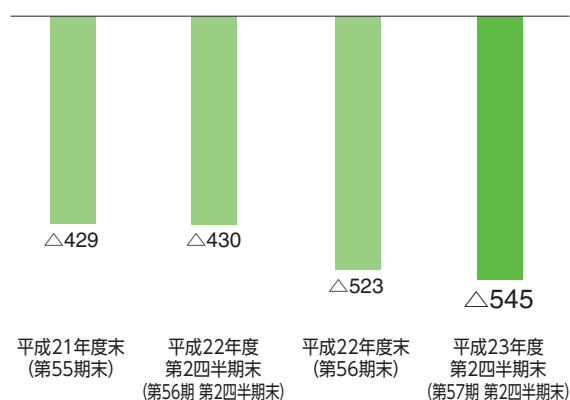


# 有利子負債残高について

■有利子負債の推移 (単位：億円)



■ネット有利子負債（連結） (単位：億円)



当第2四半期末における有利子負債残高は、前年度末より1億円増加の367億円となりました。有利子負債残高から現預金等を差し引いたネット有利子負債は△545億円と、実質的な無借金経営を継続しております。

# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当第2四半期末 (平成23年9月30日)	前年度末 (平成23年3月31日)
<b>1 資産の部</b>		
流動資産	150,112	148,693
固定資産	49,202	49,694
有形固定資産	31,287	31,557
無形固定資産	4,638	4,717
投資その他の資産	13,275	13,419
資産合計	199,315	198,387
<b>2 負債の部</b>		
流動負債	106,494	105,261
固定負債	25,968	26,029
負債合計	132,463	131,290
<b>3 純資産の部</b>		
株主資本	67,585	67,045
資本金	18,198	18,198
資本剰余金	20,759	20,759
利益剰余金	28,983	28,434
自己株式	△ 356	△ 347
その他の包括利益累計額	△ 2,344	△ 1,705
少数株主持分	1,610	1,756
純資産合計	66,851	67,096
負債純資産合計	199,315	198,387

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

### 1 資産の部

総資産は、前年度末と比較して9億円増加し、1,993億円となりました。

- 流動資産では、受取手形・完成工事未収入金等が減少する一方、現金預金、未成工事支出金が増加し、流動資産合計で14億円増加しております。
- 固定資産では、有形固定資産、投資その他の資産が減少し、固定資産合計で4億円減少しております。

### 2 負債の部

負債は、前年度末と比較して11億円増加し、1,324億円となりました。

- 流動負債では、支払手形・工事未払金等、完成工事補償引当金が減少する一方、未成工事受入金が増加し、流動負債合計で12億円増加しております。
- 固定負債は、前年度末からの大きな増減はありません。

### 3 純資産の部

純資産は、前年度末と比較して2億円減少し、668億円となりました。

- 株主資本では、利益剰余金の増加により、株主資本合計で5億円増加しております。
- その他の包括利益累計額では、その他有価証券評価差額金が減少し、その他の包括利益累計額合計で6億円減少しております。

# 連結財務諸表

## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 累計期間 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	前第2四半期 累計期間 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)
完成工事高	62,094	76,836
完成工事原価	50,270	64,004
完成工事総利益	11,824	12,832
販売費及び一般管理費	9,326	10,592
営業利益	2,498	2,239
営業外収益	721	697
営業外費用	1,352	395
経常利益	1,866	2,541
税金等調整前四半期純利益	1,866	2,541
法人税等	345	1,394
少数株主損益調整前四半期純利益	1,520	1,146
少数株主利益 (△は損失)	12	△ 14
四半期純利益	1,508	1,161

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 累計期間 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	前第2四半期 累計期間 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,535	△ 74
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 445	1,016
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 670	△ 1,362
現金及び現金同等物に係る換算差額	50	△ 287
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,470	△ 708
現金及び現金同等物の期首残高	87,337	73,954
現金及び現金同等物の四半期末残高	89,807	73,246

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結損益計算書

- 完成工事高は、一部プロジェクトの進捗率の低下により、前年同期比で19.2%減少の620億円となりました。
- 営業利益は、新規に受注したソフト案件および大型プロジェクトの収益向上とコスト削減などにより、前年同期比で11.6%増加の24億円となりました。
- 経常利益は、支払利息および為替差損の増加などにより、前年同期比で26.6%減少の18億円となりました。
- 四半期純利益は、法人税等の減少により、前年同期比で29.9%増加の15億円となりました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、主にプロジェクトの進捗に伴う未成工事受入金の増加などにより35億円の資金増加となりました。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、主に連結子会社における有形固定資産および無形固定資産の取得により4億円の資金減少となりました。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、主に配当金の支払により6億円の資金減少となりました。

以上のことから、現金及び現金同等物の四半期末残高は期首残高より24億円の増加となりました。

# 会社情報

## ▶ 会社概要 (平成23年9月30日現在)

商号 東洋エンジニアリング株式会社  
 創業 昭和36年5月1日  
 資本金 18,198,978,851円  
 従業員数 1,075名

## ▶ 事業所

### 本社・総合エンジニアリングセンター

〒275-0024  
 千葉県習志野市茜浜 2丁目 8番 1号  
 TEL 047-451-1111 FAX 047-454-1800

### 東京本社 (本店)

〒100-6511  
 東京都千代田区丸の内 1丁目 5番 1号  
 TEL 03-6268-6611 FAX 03-3214-6011

## ▶ 役員紹介 (平成23年9月30日現在)

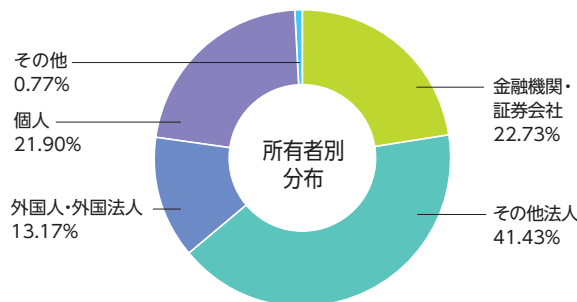
取締役会長	永田 雄志	常任監査役 (常勤)	島垣 誠	執行役員	鴨島 元佳
代表取締役 取締役社長	山田 豊	監査役 (常勤)	木下 秀明	執行役員	板倉 誠一
代表取締役 取締役副社長	波多野琢磨	監査役 (社外監査役)	梅津 貴司	執行役員	大曾根 恒
代表取締役 取締役副社長	副島 憲二	監査役 (社外監査役)	篠原 善之	執行役員	喜田 裕
代表取締役 取締役副社長	西原 一臣			執行役員	山口 正明
取締役 専務執行役員	総山 誠	常務執行役員	中尾 清	執行役員	今西 隆美
取締役 常務執行役員	松本 桂一	常務執行役員	アキレス・クマール	執行役員	越川 昌治
取締役 常務執行役員	桑原 哲	常務執行役員	保里 忠	執行役員	佐藤 弘志
取締役 常務執行役員	椎木 秀樹	常務執行役員	石橋 克基	執行役員	小島 浩次
取締役 常務執行役員	濱村 光利	執行役員	竹澤 優	執行役員	芳澤 雅之
取締役 常務執行役員	内田 正之	執行役員	村山 和治		

# 株式の概況 (平成23年9月30日現在)

- ▶ 発行済株式総数 192,792,539 株
- ▶ 株主数 14,916 名
- ▶ 大株主一覧

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
三井物産株式会社	43,770	22.70
三井化学株式会社	25,703	13.33
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	8,516	4.41
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	7,807	4.04
野村信託銀行株式会社(投信口)	5,407	2.80
大成建設株式会社	5,000	2.59
資産管理サービス信託銀行株式会社(年金信託口)	3,982	2.06
株式会社三井住友銀行	2,350	1.21
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	2,135	1.10
エスエスピーティー オーディー05 オムニバス アカウント トリーティー クライアantz	1,618	0.83

## ▶ 株主の分布状況



# 株 主 メ モ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
剰余金の配当の基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	中央三井信託銀行株式会社 東京都港区芝三丁目33番1号

同事務取扱所 (郵便物送付先/電話照会先)	中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
同取次窓口	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
上場証券取引所	東京証券取引所

## 株式に関するお手続きについて

お手続き、ご照会の内容	証券会社の口座に記録された株式	特別口座に記録された株式
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 単元未満株式の買増・買取請求*</li> <li>● 特別口座から証券会社の口座への振替請求</li> <li>● 配当金受領方法のご指定またはご変更</li> <li>● 住所・氏名等のご変更</li> </ul>	<p>□座を開設されている証券会社にお問合せください。</p>	<p>【お問合せ先】 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-78-2031 (フリーダイヤル)</p> <p>◇ 各種手続き用紙のご請求 ◇ TEL 0120-87-2031 (フリーダイヤル 24時間受付：自動音声案内)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 郵送物等の発送と返戻に関するご照会</li> <li>● 未払配当金に関するご照会</li> <li>● 配当金の支払明細発行</li> <li>● 株式事務に関する一般的なお問合せ</li> </ul>	<p>右記中央三井信託銀行株式会社にお問合せください。</p>	

\* 特別口座に記録された単元未満株式をご所有の株主様には、「単元未満株式(1~999株)買取請求のご案内」を同封いたしましたので、ご参照ください。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



VOC(揮発性有機化合物)の発生の少ない植物油インキで印刷しています。

